

# 火打山&妙高山山行報告

【山行日】2021年 10月 2~3日(土日)

【集 合】岩舟支所P AM 4:00

【費 用】マイカー1台 : 19,300円

【メンバー】CL:鈴木 SL大西 石澤、並木、  
福島、藤原、

2日 晴後雨 笹ヶ峰登山口より高谷池ヒュッテ、  
天狗の庭を經由し火打山登頂後高谷池ヒュッテま  
で戻り、黒沢池ヒュッテまで行って宿泊。

岩舟支所P4:00=笹ヶ峰P6:50/7:10~黒沢8:10~富  
士見平9:50~高谷池ヒュッテ 10:50/11:30~

火打山 13:10/13:30~高谷池ヒュッテ 14:40/14:50~  
黒沢池ヒュッテ 15:40



山行アンケートで久しぶりに火打山と妙高山のリクエストがあり、紅葉の時期に合わせて計画した。岩舟支所を4時に出発し、北関東道から上信越道を走り妙高高原ICを出て笹ヶ峰キャンプ場の駐車場に車を止め、トイレを済ませストレッチを行ってから出発する。道路を渡ると登山口の門



があり、門の前で環境保全協力金500円/人を納め、登山計画書を提出して登山口の門をくぐる。

ブナの原生林の中に付けられた木道を緩やかに登り、登り始めの足慣らしにはとても良い道である。

まだ紅葉には少し早いですが、ブナの森林浴を楽しみながら歩き黒沢に着く。橋の手前の広場で休憩し、

衣服調整と水分補給を行う。黒沢に掛かる木の橋を渡り、九十九折れの急登が続く十二曲がり

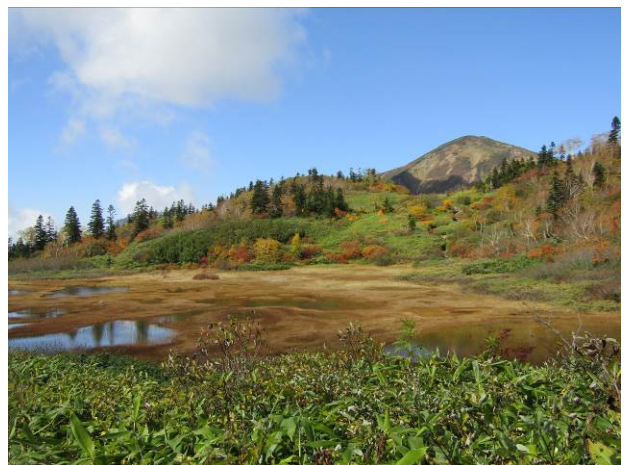
に取付く。ゆっくり登り折り返すたびに曲がりの数を確認し、確実に高度を上げて行く。12曲がりを登り切った所に平らな場所があり、ここで小休止してナシを

いただき呼吸を整える。ここからは稜線上の歩きと

なり、樹林の中の登山道を登って行く。このあたりの紅葉が見頃で、真っ赤なカエデが朝陽を受けて美しい。前日の雨でぬかるみが多くなるが、木道が整備されて歩き易くなっている。やがて樹林帯を抜けて富士見平に出て小休止する。ここは分岐になって

いて、右は黒沢池へ左は高谷池への道だ。分岐を左に進み、黒沢岳の中腹を巻くようにして行く。初めはネマガリタケの滑りやすい道だが、直ぐにシラビソの樹林帯に入る。左には火打山や焼山が見えるようになり、さらに進むと高谷池ヒュッテの三角屋根が見えてくる。緩やかに下ると道は小さな草地を横切り、ヒュッテの裏のベンチがある広場に着く。奥のベンチとテーブルを確保し、少し早いランチタイムとする。お湯を沸かしてカップ麺やスープを作り、おにぎりやパンをいただく。チャーシューや漬物が並び、デザートの手作りチーズケーキも出て豪華なランチとなった。

台風一過の秋晴れに恵まれ、高谷池湿原の向こうにデーンと構えた火打山が素晴らしい。ランチが済んだら余分な荷物をヒュッテの軒下にデポし、本日の目的の山火打山へと向かう。



高谷池の右側を巻くように付けられた木道を進み、木道が終わった所から岩場を登る。登り切ると再び木道を歩くようになるが、両側の灌木帯は紅葉が見頃でとても美しい。木道が終わって少し下ると天狗



の庭に出て、ここにも池塘が点在し水面に火打山を映し、まさに雲上の楽園である。湿原の草紅葉も素晴らしく、これから登る火打山を引き立てていた。素晴らしい景色に皆さん満足そうに微笑んでいたが、ここから火打山右側の稜線から登りが始まる。ダケカンバなどの灌木の道を緩やかに登って行くが、次第に傾斜が急になり疲れた足には辛い登りだ。途中の雷鳥平のベンチで休憩し、リンゴや菓子を食べてエネルギーを補給する。ここから丸太の階段の急坂を登り、頑張って登り切ると火打山山頂に着く。山頂は広く石仏が置かれ、360度の大展望が広がる。明日登る妙高山や天狗の庭、高谷池が望

めるが、西側はガスが掛かって焼山方面は見えなかった。ご褒美のナシを食べてしばらく待つとガスが晴れ、焼山が真近くに大きく聳えて見えた。眺望を楽しんだら記念写真を撮り、往路を戻って下山する。高谷池ヒュッテまで戻ってデポした荷物を回収し、トイレを済ませたら黒沢池ヒュッテに向かう。

木道を火打山へ向かって進むと直ぐに分岐になり、右に進んで小さな谷あいの道を登って行く。20分程

登ると茶臼山に着き、ここから平坦な笹が茂る稜線を行く。左側が切れ落ちた崖っぷちを過ぎると下りになり、右側に黒沢の湿原が見えるようになる。するとにわかには雲行きが怪しくなり、雨がポツポツ降り出した。速足で下りやがて八角形のドーム状の屋根が見え、下り切ると黒沢池ヒュッテに着く。受付を済ませたらヒュッテ脇の小屋に靴を置き、ヒュッテ3階の部屋に案内される。指定された番号の布団に落ち着いたら雨の音が大きくなり、凄まじいばかりの雨が降ってきた。女性が着替える間1階の食堂に行く。小屋を管理する方は2人で、食事の準備に追われて忙しそう。ビールでも買おうと思ったが、管理人に「コロナ感染予防の為、食事以外は食堂の使用は禁止」と言われ追い出される。しかたなく3階に戻り、布団を敷いて夕食までひと眠り。2回目の夕食なので6時30分まで布団の中にもぐって、皆さんとお話をする。6時15分に夕食の案内があり、食堂へ降りて夕食をいただく。皿にサンマの煮つけが半分と、シイタケ、ニンジン、筍の煮つけが3個ずつ載り、ご飯とみそ汁の質素な食事である。ご飯とみそ汁はお代わり自由なので、皆さんは味噌汁をお代わりして飲んでいて、ビールや酒を飲まないで寝るのは初めての経験だが、部屋に戻ってすぐに布団にもぐりこみ、明日に備えて就寝した。



**3日 快晴 黒沢池ヒュッテから大倉乗越を越えて長助池分岐まで下り、分岐から妙高山南峰・北峰に登頂後燕温泉に下山しタクシーで車を回収し岩舟支所に帰着する。**

**黒沢池ヒュッテ 5:45～大倉乗越 6:10～長助池分岐 6:50/7:00～妙高山南峰 8:10/8:25～南峰 8:30/8:40～天狗平 9:50/10:00～麻平分岐 10:50～燕温泉「花文」11:35/14:00＝岩舟支所P17:30**

朝食は予約時の確認では4時30分からだったが、2回目の朝食で5時15分からの食事になった。朝食はヒュッテ名物のクレープが3枚とブルーベリージャム、スープとコーヒーと野菜少々である。クレープにブルーベリージャムを付け、K澤さんが持って来たチーズやチャーシューを挟んでいただく。なんとか完食しお茶をお願いしたが、「お茶はありません」と断られた。お湯も無いのでペットボトルの水やポカリスエットを購入する。出発の準備をしてトイレを済ませたら外に出て、靴を履いたらストレッチを行い出発する。今日も快晴の天気で、皆さんルンルン気分歩きはじめる。

小屋の前は十字路になっており、妙高山へは左に大倉乗越へ向かって登って行く。初めはゆるやかな



登りだが、次第に傾斜が急になり火山灰の斜面は滑りやすい。25分で大倉乗越に着き、これから登る妙高山が正面にドーンと聳えて見える。乗越からは外輪山の内側を巻くように下り、岩の段差をロープやクサリで下って長助池分岐に着く。休憩して衣服調整と水分補給を行い、分岐を右に進んで妙高山への登りに取付く。ここから急登の連続で登れるか心配になるが、ゆっくりペースでも意外と高度を稼げる。途中、大きなダケカンバの木の下で休憩し、足を休めて水分を補給したら出発する。登り切って稜線に出ると傾斜が緩やかになり、右に稜線上を進むと三角点がある妙高山

北峰に出る。三角点の奥の大きな岩に登ると北アルプスの眺望が素晴らしく、白馬岳から五竜・鹿島槍ヶ岳、槍ヶ岳から穂高連峰までの大展望が広がっていた。皆さんは大パノラマに感動し、夢中でスマホのカメラに収めていた。大展望を楽しんだら記念写真を撮り、もう一つの山頂、南峰へと移動する。狭い岩の間を通り抜け、10分足らずで南峰に着く。南峰山頂には大きな石祠が祀られ、仏像が並んでいる。石祠の前で記念写真を撮り、陽当りの良い岩場で休憩する。ミカンや菓子を食べながら、これから下る燕温泉方面の眺望を楽しんだ。燕温泉への下りは石祠の裏側から始まり、急坂を下ると岩場の下りになり慎重に下って行く。北アルプスの眺望を楽しみながら軽快に下り、しばらくするとクサリ場に出る。15mほどの垂直な崖を下るが、崖に沿って足場が刻んであり問題なく下れた。ここからは樹林の道を下るようになり、やがて光善寺池と言う小さな池に出る。池を回り込むように進むが、池の周りの紅葉が見頃で写真に収める。ここから少し下ると天狗平で、石祠が祀られトイレブースが設置されている。小休止し饅頭や菓子を食べて、疲れた足を休める。ここからは皆さんをSLに任せ、我輩は先行して速足で下り燕温泉からタクシーで車を回収に向かう。樹林の中の急坂を下り、硫黄の匂いがするようになると北地獄谷の河原に出る。しばらく沢浴いになり、麻平分岐は右に進む。山を巻くように下りザレた斜面を下ると称名滝に出る。中々立派な滝で写真撮影の一行が、三脚を立てて滝の写真を撮っていた。ここからは石畳みの道を下るようになり、途中からは狭いコンクリートの道を川浴い到下って行く。下り切ると広い車道に出て、車道をしばらく下ると温泉街が見えてくる。温泉神社から石段を下り、温泉



街に出て200mくらい下ると温泉旅館「花文」に着いた。30分早く着いたが、予約したタクシーが待っており、花文の女将に「12時頃女性5名到着します」と伝えタクシーに乗り込む。笹平まで片道45分、往復で1時間30分掛かり12時30分に戻った。女性達の着替えを女将に頼み、我輩も温泉に浸かる。女性風呂は露天風呂があり、料金が100円高い600円になる。この露天風呂が女性に好評で、ぬるめの湯はのんびり入れて、着替えの到着を待つ時間が苦にならなかったようだ。

全員が出たら昼食の十割蕎麦をいただく。皆さんが天ぷらも欲しいというので追加し、我輩は生ビールと



お酒2本もオーダーした。生ビールが来たら、間違  
って2杯出したので、1杯100円でどうですかと言  
われ、女性達がコップに分けて飲むことにした。  
お疲れ様の乾杯し、揚げたての天ぷらと打ちたて  
の蕎麦にかぶりつく。皆さんが美味しいと笑顔で食  
べ、天气に恵まれて山も最高だったねと会話が弾  
んだ。皆さん大満足で花文を後にし、岩舟支所へと  
向かう。途中、JA妙高高原直売所で買い物し、新  
鮮な野菜をお土産にゲットする。上信越道から北関  
東道と順調に走り、岩舟支所へ1時間早く帰着した。  
2日間秋晴れの登山日和に恵まれ、頸城山塊の百  
名山2座を踏破出来、充実した山旅となった。